

## 2025年2月アナンダインド旅行通信(1)

**日 程**：2月21日(金)～3月4日(火) 12日間

**費 用**：¥242,000+¥120,000=合計費用¥362,000

**滞在費**：¥242,000：消費税、ホテル宿泊代(朝食込み)、講習移動時の昼食代込み、インド国内タクシーバスでの移動費、講習用染料、布3種類、絞り用布代込み

**航空券**：¥120,000：燃油サーチャージ、空港税など込み

日本航空利用羽田～デリー往復

**定 員**：20名 定員になり次第締め切らせていただきます。お早めにお申し込み下さい。

### 参加する皆さんに伝えたいこと

アナンダは皆さんを一人でも多くインドに連れて行って体感してもらいたいものが実は有るのです。その手作りの暮らしから、西洋とも日本とも根底の違いを感じる何か、これを楽しんでもらいたい。つまり、観光地ではなく、日常の人の暮らしに接すると感じるのですが、それは、多分、日本が高精度の機械生産の国として社会がきちり出来あがっているのに対して、インドは自分で生きる、手作り思想の国と言う感じ。それもあるし、地平線に沈む太陽や、羊の群れが遊牧民に引かれて遠くを行く風景、大自然の中の淡々とした農民のインド哲学的な生き方などに感動したり 又、町の大通りで牛、やぎ、犬、イノブタの親子や猿の一家などがつなわれもせず、人間と、まるで同等の生きる権利を持っているかのように生きて居る風景。命を排除しないこの人々の生き方の不思議さに感動したり等々するのですが、それらも含めて、それ以上に感じ方は皆さんいろいろですが、言葉では言えない深いものが見えて来るでしょう。

インドのそれが優れているとか、正しいとか言う気は全く有りません。が、皆が生きて居る日本の空間には、そのちょうど反対、異質を排して整頓する几帳面な日本人という一面が、色濃く有るので、日本の子供達はとても厳しい環境で生きて居る。その中で、当然、不登校がとても増えて、この社会の未来に不安を感じます。これは現場に立たなければ説明してもダメという感じです。インドに見られる古代から続くその流れは、日本にとって、多分、救いとなる大きなヒントが詰まって居ると思います。

日本がまだ石器時代だった頃、インド亜大陸には上下水道が完備した、都市国家が有った。この永い歴史に多くの民族の多様な人々が移り住み、お互いに戦わずにうまくやって行く工夫の歴史、他者をそのまま認めて互いに責めない、排除しない。この 赦しの文化 は、争いを避けて暮らす何千年もの、その知恵の蓄積。ここには地球上から戦争を無くすためのヒントが、多分、潜んでいます。非暴力、徹底抵抗で、人を殺す武器は使わず、あの賢い大英帝国を参ったと言わせて、独立を勝ち取った、あの、マハトマガンディーの思想はインドの誉れどころでなく、多分、人類に進化をもたらす偉大な思想に違いないのです。

同封のアナンダインド旅行の特徴と狙いをよくお読みいただき参加希望の方は同封の申込用紙にご記入の上アナンダまでお申込みください。航空券の手配はグループで予約しています。みなさんの参加お待ちしております。

別紙「アナンダインド旅行の特徴とねらい」をよくお読みいただき参加希望の方は、「インド旅行参加申込用紙」にご記入の上アナンダまでお申込みください。

お申込み後に振込先をお伝えしますので、1月8日(水)までにお振込み下さい。航空券の手配はグループで予約しています。みなさんの参加お待ちしております。

### この通信1に関連するもの

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| 1) アナンダインド旅行通信(1)   | 2枚           |
| 2) インド旅行参加申込用紙      | 1枚           |
| 3) 旅行日程表            | 1枚           |
| 4) アナンダインド旅行の特徴とねらい | 2枚           |
|                     | 合計 <b>6枚</b> |

### \*今回の旅行費用について

航空券は羽田発、日本航空利用デリー～羽田直行便利用です。詳細は日程表に記しています。

ホテルはジャイプールアーリヤニワス(Arya Niwas Hotel)を利用、朝食付です。ワークショップや移動時の食事も費用に含まれます。

デリー往復のバス代や滞在中の移動に使うタクシーやバスも滞在費用に含まれています。各自お支払いいただくのは夕食(ホテル内レストラン¥500～¥1,000)自由行動での昼食代です。

講習時に使用する3種類(テーブルクロス、服、ショール、それぞれに向く布を用意)も費用に含まれています。一枚2～3m使用できます。その他に自分の手持ちの布も量に限りがありますが持っていくことができます。ご相談下さい。

### \*旅行のキャンセル料について

**1月15日(水)までに旅行をキャンセルする場合、旅行費用の全額返金致します。**

**1月16日(木)以降、出発2日前まで**のキャンセルは旅費の**半額**お支払いいただきます。宜しくお願ひします。**出発前日、当日キャンセルの場合全額返金できません**ので、ご了承下さい。

### \*インド滞在ビザについて：

インド旅行には滞在ビザが必要です。ビザ申請を希望の方は航空券同様の旅行会社で手配することができます。ビザ申請代行手数料は、9,000円です。ビザを取得するにはパスポートの有効期限半年以上が必要です。必ずパスポートをご確認下さい。

もしパスポートをお持ちでない方、有効期限が半年以下の場合にはできるだけ早く申請取得お願ひします。

**ご自分でビザを申請される方**は取得後お手数ですがアナンダまでコピーを送付ください。宜しくお願ひいたします。

### \*自分のデザインした木版を作ってもらいたい方へ

ご自分のデザイン画をインドに送って木版を作ってもらえます。ご希望の方はアナンダまでデザイン画を送って下さい。木版職人は精度高く、どんなデザインでもその通り作ってくれますが、中にはこちらで判断して書き直しをお願いすることもあります。ご了承ください。作ってもらいたい方は、できるだけ早くお問い合わせ下さい。大きさやデザインの細かさなどで値段が違いますが¥1,000～¥5,000 ぐらいです。

旅行についての注意事項や気候、持ち物のことについては、お申し込みいただいた後の通信(2)でお知らせします。

質問などありましたらいつでもご連絡下さい。

(株)アナンダ 西岡ゆう子

# 2025年2月アナンダインド旅行参加申込用紙

今回のインド旅行参加ご希望の方は、1月8日（水）までに、この参加申込用紙の各項目にご記入の上、メール、ファックス（0551-32-4830）、郵送いずれかにてお送りください。参加費用の振込先をお知らせします。参加費用は1月8日（水）までに全額お振込み頂くようお願いいたします。

**\* 住所（フリガナ）：〒**

**\* 氏名（パスポートと同じローマ字と漢字フリガナを付けてください）**

ローマ字：

漢字：

**\* 生年月日（西暦でお願いします）**          年   月   日   年齢（   才）

**\* 電話：**

**\* 携帯電話：**

**\* メールアドレス：**

**\* パスポート番号（パスポートのない方は出来るだけ早く取得して下さい）**

質問等あれば、下記にお願いします。

# 2025年2月アナンダインド旅行日程表

**日程**：2025年2月21日(金)～3月4日(火) 12日間

**費用**：インド滞在費242,000円＋航空券代120,000円＝362,000円

**2月 21日(金)** 羽田空港集合 9:30

羽田発11:45～デリー着18:20 (JAL39G便)

デリー空港着後ジャイプール(Jaipur)へバスで移動  
アーリヤニワスホテル10泊(全朝食付き)

**22日(土)** 午前中アーノキミュージアムへ行く。午後から自由行動。

**23日(日)** バグルー村(Bagru)、木版更紗講習が始まる。(昼食付)

**24日(月)** バグルー2日目、染めの仕上げに行く(昼食付)

**25日(火)** ドーサ(Dausa)へカディの村、カディーセンターに行く。

**26日(水)** 泥防染で木版プリント。カラデラ村へ出かける。(昼食付)

**27日(木)** 同じく、カラデラ村(Karadera)へ仕上げに行く。(昼食付)

**28日(金)** ジャイプール市内の化学染めの工房で絞り染め。(昼食付)

**3月 1日(土)** サンガネール(Sanganer)の化学染め木版工房や  
紙の再生工場に行く

**2日(日)** 自由行動、観光、ベジタリアン料理を習うなど

**3日(月)** 朝ジャイプールをバスで出発、途中ドライブインで昼食  
デリー空港発19:55(JAL30G便)

**4日(火)** 羽田空港着06:30 解散

\*ホテルは朝食付きです。

\*講習、移動中の昼食は費用に含まれています。

\*自由行動の日の食事と毎日の夕食代は各自負担でお願いします。

\*日程は現地の都合で変更になることがあります。ご了承ください。

\*布など持参して染めたい方はあらかじめご相談ください。

\*オリジナルの木版を作ってもらいたい方は1月中にデザインを送ってください。  
詳細はお問い合わせください。

\*染め工房で使用する布は用意しています。費用に含まれています。

\*ホテルの部屋はツインルーム(2人部屋)です。

シングルルーム希望の方はお問い合わせください。

# アナンダインドグループ旅行の特徴とねらい

この旅行に参加希望の方はこのアナンダ・グループ旅行の特徴とねらいを是非よく読んでからご参加下さい。

## (1) このグループ旅行のねらい

今の自分の暮らしの中で使えるものを作りに行き、その自作を背負って帰る事です。参加者のほとんど全員が、自分の手でもの作りする人達です。旅行業者には航空券手配を頼むだけで、全てインドとの長い付き合いで築かれたアナンダの個人的なつながりだけでこの旅行は構成されています。インドの村に、今も生きて居る伝統的な職人達に、その物作りを習いながら物を作るという事を通して人の心が通じ合う。アナンダのグループはこの感動がわかる人達なので、多分、観光業者には不思議な人達に見えて・・・近くに世界遺産が有ると言うのに、見向きもしないで、村で手を汚して木版を捺しているなんて・・・と、彼らは思っているでしょう

## (2) 植物染めの村について

バグルー村（植物染料、捺染）と、カラテラ村（泥防染、浸け染）という歴史ある木版更紗の村の染め工房を、職人ごと、二日間、計四日借り切り、皆さんが家で使う布を好きなだけ作って来る旅です。自分の作品作りの中心になりますので、参加者は自分の家のテーブルクロスやベッドカバー、カーテン、自分の服地、Tシャツやショールなど持って行っても染められます。昔からの更紗模様をイメージして、自分が使える物をいっぱい染めるつもりで、作りたい物を考えて行きましょう。（自分の図案の木版が欲しい人は前もってアナンダに連絡下さい。木版屋に頼めます（1月中にお願いします。）欲張って計画して行きましょう。壁一面にたくさん並んでいる木版の中から好きな版を選んでミロバランで下地染めした布に伝統的な黒、赤、茶の三色が捺せて（実は、色を捺しているのではなく鉄媒染、アルミ媒染、茶はタンニン系の何か）

それを次の日に、アリザリン（茜の色素）の釜で低温（80度C以下）で染めをします。

カラテラ村は、泥で防染しての浸け染め。前日に自分が捺したのも防染で、地染、藍などを加えられます。感じの良い古い村の染め屋です。技術もだけど、現地の職人達の人柄に、こちらを作る人として対等に接することができるのが面白いです。各村で3種類の布をそれぞれ2～3m作ることができます。（旅行費用に含まれている）

## (3) サンガネール化学染めの木版更紗布とリサイクルの綿を使った手漉き工場について

数年前から植物染めの布だけではなく化学染めの木版更紗布も輸入しています。その中心的な染めの街がジャイプールの隣にあるサンガネールです。今回も見学だけではなく午前中だけですが化学染めの木版も是非経験してもらいたいのので日程に加えました。昼食は街のダバと呼ばれる庶民の食堂に行きます。職人や働く人たちが利用する普通のレストランです。午後からは近郊のリサイクルのゴミの集積場にある手漉き紙の工場に行きます。綿の生地などを粉砕し紙を作っている工場です。必見です。

## (4) 化学染めの工房で絞り染め

ジャイプル市内のイスラム地域にある化学染めの工房に行きます。家族総出で絞り染めをしている工房で絞り染めを自分の好きな色に染めることができます。工房の前にはモスクがあり、そのエリアに入るとまた違う生活感を肌で感じる事ができ、是非、皆さんに直に見てもらいたい場所です。

## (5) 観光について

観光はやらせ、見せ物で、その背後にある思想は「王様の権威」と「金儲け」なのでインド文化を誤解します。この旅行では村人、職人達の暮らしに接し、しかも手で物作りの交流なので、意外にも言語なしで多くの事が通じ合う、とても楽しい旅です。時に私達の料理人が村の野菜市場で食材を買う時にも、野菜市場の奥までついて行くと、初めて見る野菜やくだもの。人々の間を自由に歩いている牛や山羊やブタの親子などに驚いたり、自由行動の日にはベジタリアン料理を習ったり、ヨガやオイルマッサージなど。

観光は無しとは言え、自分を大事にする国なので、何でも希望があればアナンダに言って下さい。観光したい人にはタクシーの手配や友人のガイドを付けてあげられます。

## (6) 参加する皆さんに伝えたいこと

アナンダは皆さんを一人でも多くインドに連れて行って体感してもらいたいものが実は有るのです。その手作りの暮らしから、西洋とも日本とも根底の違いを感じる何か、これを楽しんでもらいたい。つまり、観光地ではなく、日常の人の暮らしに接すると感じるのですが、それは、多分、日本が高精度の機械生産の国として社会がきちり出来あがっているのに対して、インドは自分で生きる、手作り思想の国と言う感じ。それもあるし、地平線に沈む太陽や、羊の群れが遊牧民に引かれて遠くに行く風景、大自然の中の淡々とした農民のインド哲学的な生き方などに感動したり 又、町の大通りで牛、やぎ、犬、イノブタの親子や猿の一家などがつながれもせず、人間と、まるで同等の生きる権利を持っているかのように生きて居る風景。命を排除しないこの人々の生き方の不思議さに感動したり等々するのですが、それらも含めて、それ以上に感じ方は皆さんいろいろですが、言葉では言えない深いものが見えて来るでしょう。

インドのそれが優れているとか、正しいとか言う気は全く有りません。が、皆が生きて居る日本の空間には、そのちょうど反対、異質を排して整頓する几帳面な日本人という一面が、色濃く有るので、日本の子供達はとても厳しい環境で生きて居る。その中で、当然、不登校がとても増えて、この社会の未来に不安を感じます。これは現場に立たなければ説明してもダメという感じです。インドに見られる古代から続くその流れは、日本にとって、多分、救いとなる大きなヒントが詰まって居ると思います。

日本がまだ石器時代だった頃、インド亜大陸には上下水道が完備した、都市国家が有った。この永い歴史に多くの民族の多様な人々が移り住み、お互いに戦わずにうまくやっって行く工夫の歴史、他者をそのまま認めて互いに責めない、排除しない。この 赦しの文化は、争いを避けて暮らす何千年もの、その知恵の蓄積。ここには地球上から戦争を無くすためのヒントが、多分、潜んでいます。非暴力、徹底抵抗で、人を殺す武器は使わず、あの賢い大英帝国を参ったと言わせて、独立を勝ち取った、あの、マハトマガンディーの思想はインドの誉れどころでなく、多分、人類に進化をもたらす偉大な思想に違いないのです。

(株)アナンダ 西岡秀樹、ゆう子